

復讎
奇語
天橋立
四

^ 13
3579
4



門 へ 13
號 3579
卷 4



復讐奇談 天橋立

第五回

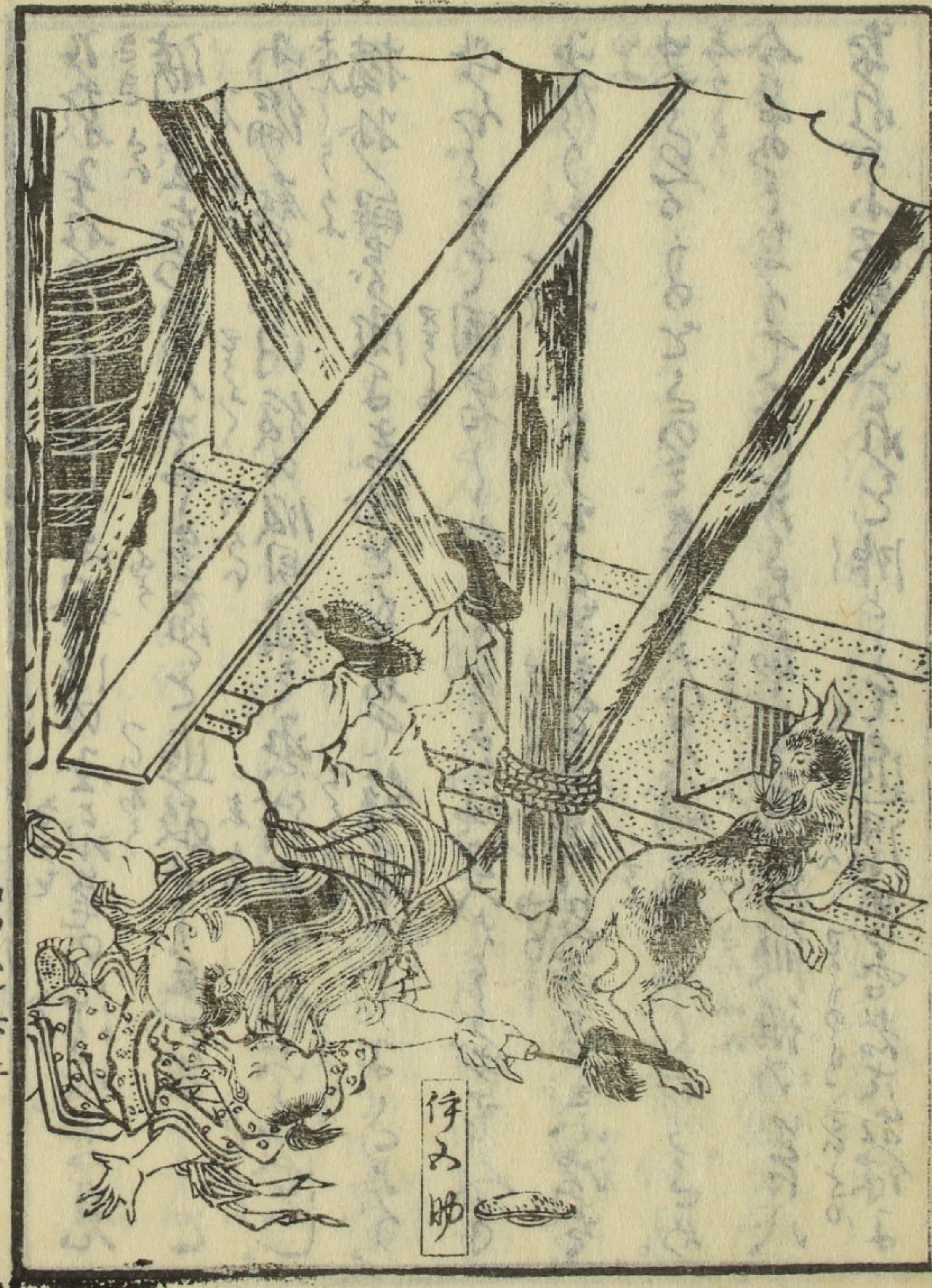
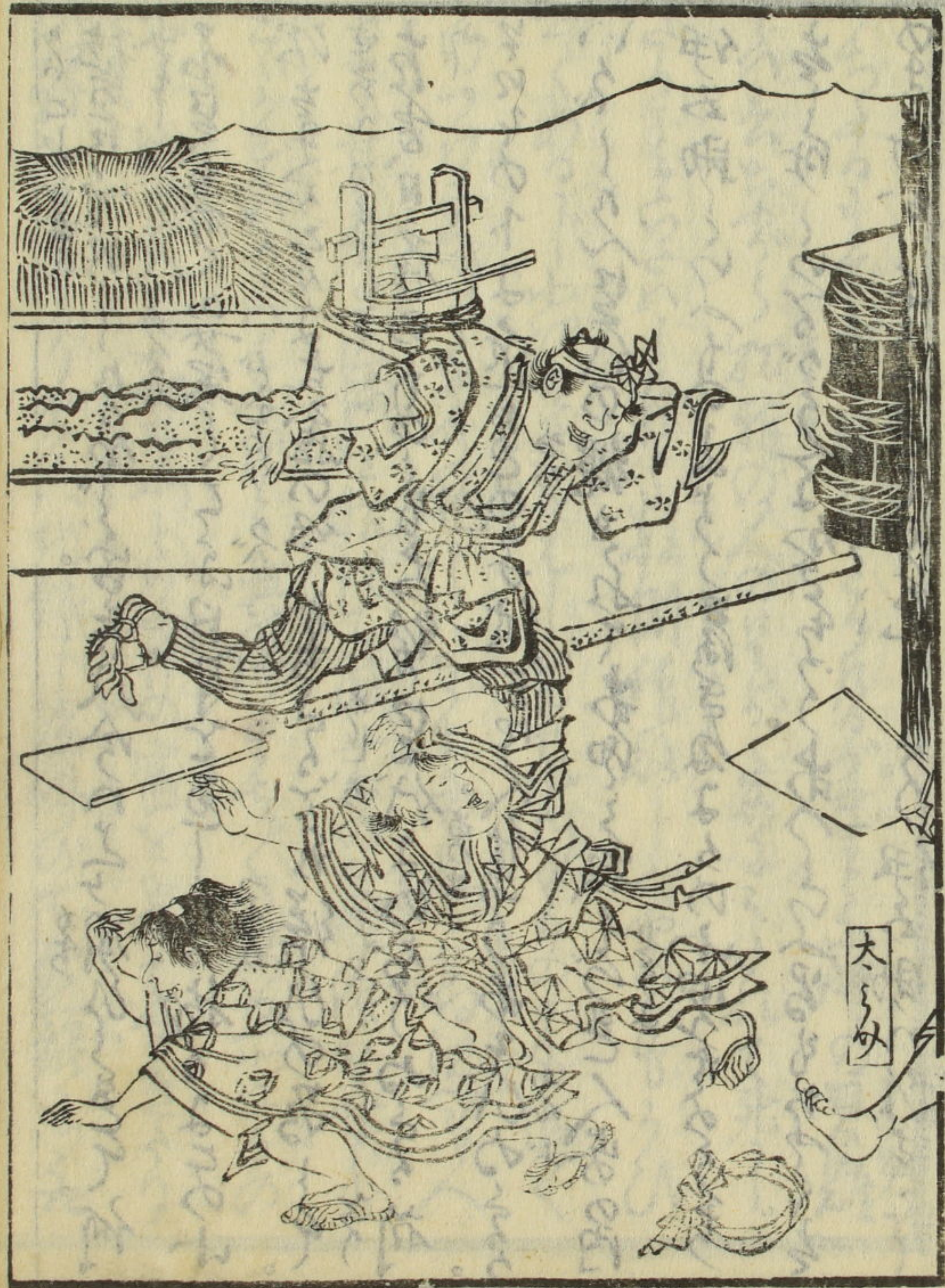
昔年より公神事にして中々流く室は小ぬり
りねと身許苦痛きつを分れ其らと是れもちり血
不潔けつなれ子こをせり入るに時を和治わじと云ひ
ひらきしをひそ暗るはよよとまをてらるるに所は所がれ
西。初雁が公安ききと云ふ。そよ奇ききねくあう
ころが母あたる母よりしてあまお獨ひとりりてり久也。医い藤ふじとて
そよ母あはれをまらふあて公よりいむ。ひひ舟ふねはまねにあが

早稲田 学 図書館
35.1.22
蔵 書

りつ本小徳も登壇もありぬを。されどもは宮八千と
せやへ出入りのゆて格女どもの奇伎彼をふ雀生を。
仁多様とよりよとちかふひうぐしの老史あり。何ぞ
も初詣がせのちありりりりのゆ人たふ年ありと芳里
さーとちりるあぞ。ぐんぐ日教もくちあり。月もくちて
中年来よりもし雨ありりるも解病おらうて来ぞ
ゆき雪の色もはへぞ。初詣格女何角の公儀して。
おきく初詣の同とまのびつひあり。流流とくちり
あぐさめ。あやふ人きくむと号して。あま月日とぞ送り

ユウシント

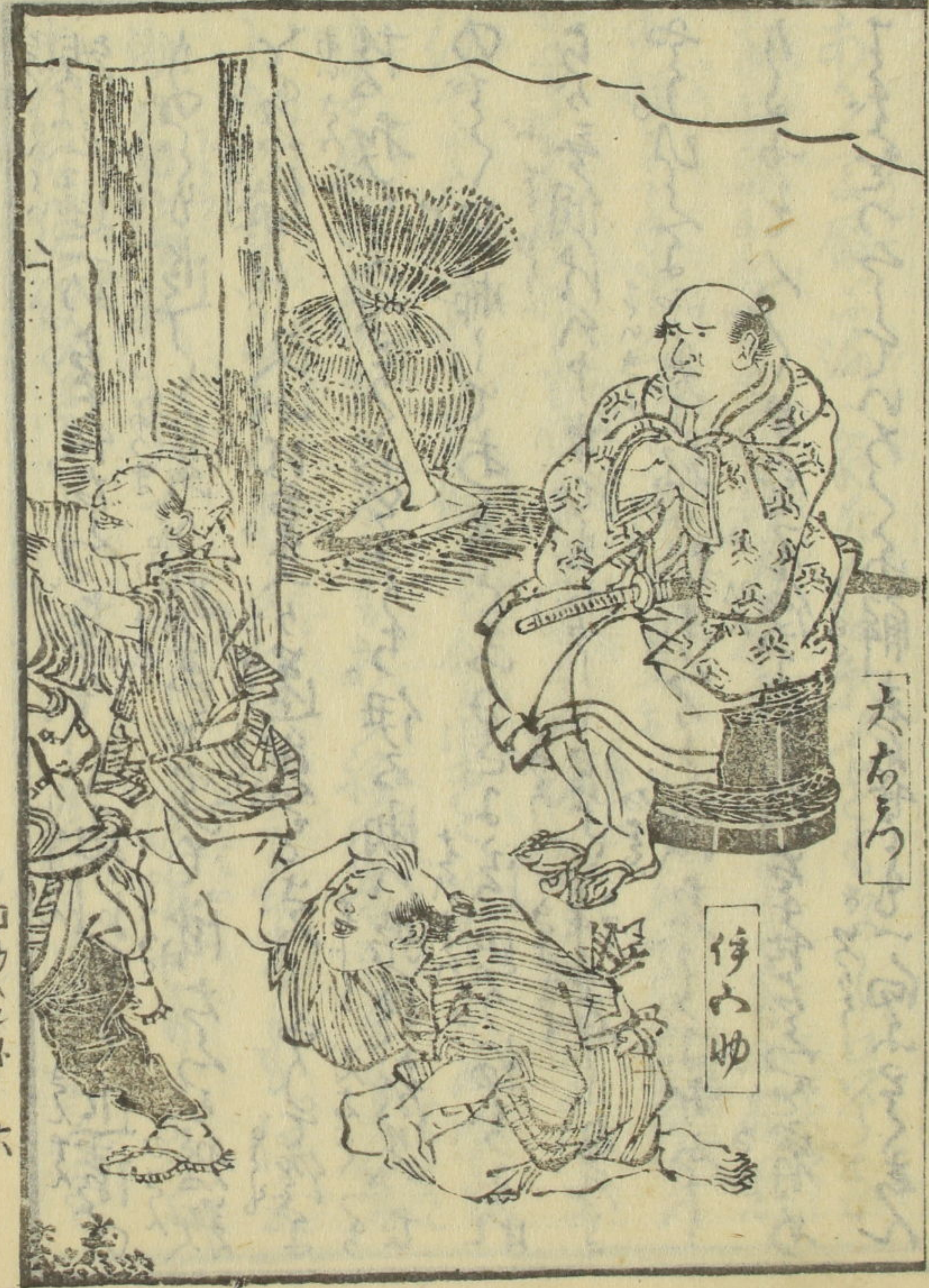
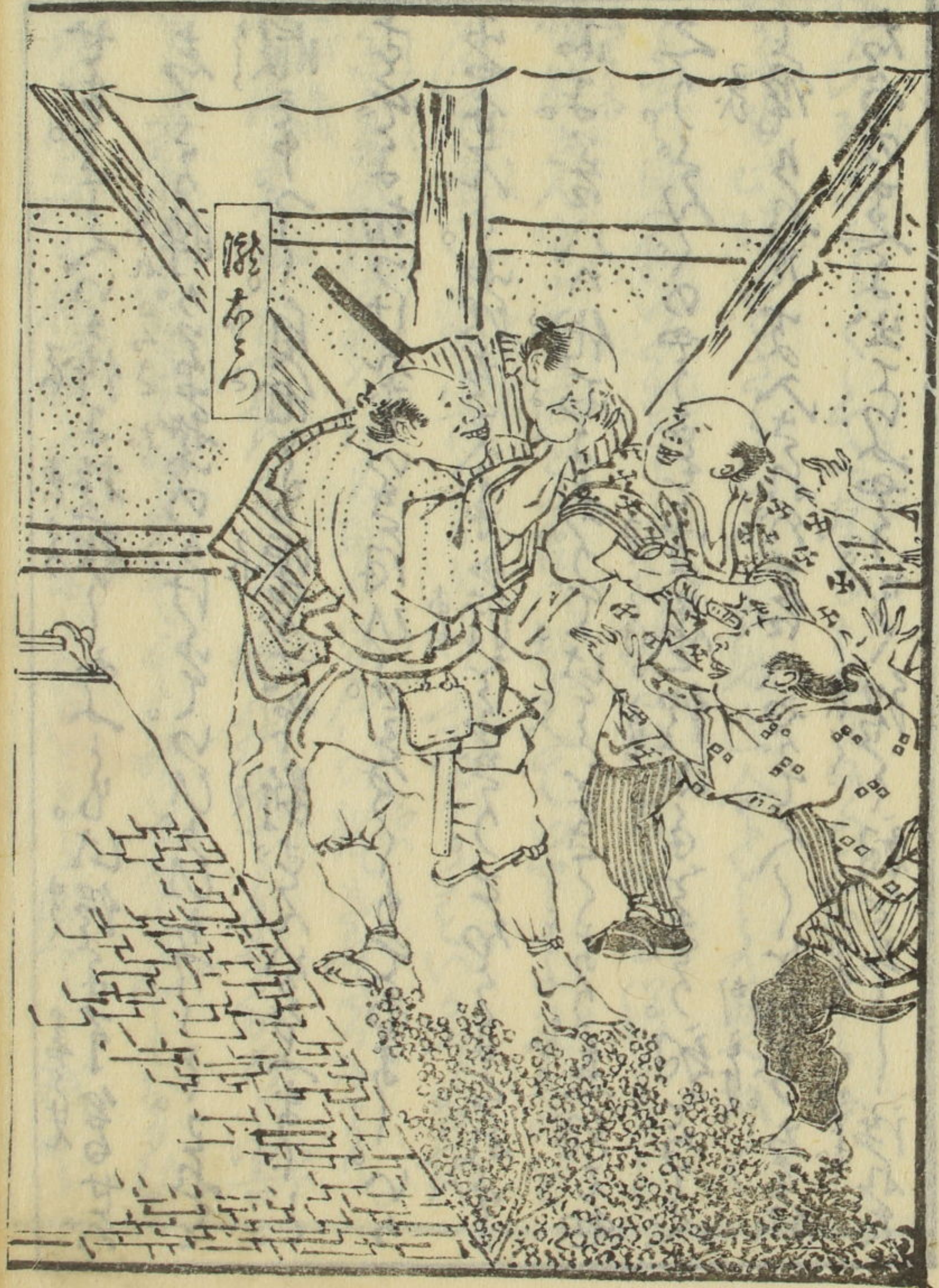
乃教。それのさそを。さ丹後の玉冠尾の流人。大見
騎臺たるりりぞや。まきと追殺せしむ。さくこと
小偏懸く。日後の服貝仙と。あまの持たて。あは
據抄解が。際もあふと。あて。あまの持たて。あは
此のゆて同者く。あまの持たて。あまの持たて。あは
あまの持たて。あまの持たて。あまの持たて。あは
あまの持たて。あまの持たて。あまの持たて。あは
あまの持たて。あまの持たて。あまの持たて。あは
あまの持たて。あまの持たて。あまの持たて。あは
あまの持たて。あまの持たて。あまの持たて。あは



あつ。公解不海へ海死人と取小ともあつ。口でう言
手もふらうもさうして後わんと。腰をさくつる小指指
の柄も子とさうすと。中はちまひか。一とがちてらふも
さう。こらふか。も。必まはあつ。指ちつ。後へ。う。死よ
似て。死よ。あつ。む。能を。今。準。と。付。さ。一。あ。つ。も。
由子。身。の。義。生。ま。る。あ。も。あ。つ。後。へ。義。ま。あ。も。不。言。
し。あ。ひ。あ。不。こ。ら。さ。ご。あ。つ。が。あ。つ。の。こ。ら。さ。も。伊。又
助。の。あ。つ。我。あ。つ。も。あ。つ。と。後。首。せ。ま。つ。と。あ。つ。
ま。げ。て。後。首。の。さ。つ。と。後。首。と。あ。つ。と。あ。つ。も。あ。つ。と。

コウヘン下六

張公。還。一。の。さ。を。法。た。ら。ち。あ。つ。く。あ。つ。と。せ。と。法。の
り。の。も。道。つ。集。り。始。ま。を。ま。つ。と。法。た。ら。ら。然。歎
と。あ。つ。後。一。又。小。は。ま。ま。り。迷。あ。つ。と。さ。つ。一。中。り。て。後。子
あ。つ。と。の。さ。つ。と。さ。つ。と。さ。つ。と。伊。の。助。の。始。終。然。及。ち
の。ど。く。也。怖。つ。と。あ。あ。と。さ。つ。と。は。法。也。何。か。と。れ
ら。が。あ。つ。は。か。ち。ま。つ。と。あ。つ。一。宜。く。法。定。存。一。あ。つ。と。
あ。つ。ひ。と。な。あ。つ。法。が。ひ。あ。つ。と。法。た。ら。う。は。あ。つ。一
り。も。あ。つ。と。一。と。さ。つ。と。不。言。つ。と。あ。つ。と。あ。つ。と。あ。つ。と。
と。あ。つ。と。つ。と。一。と。あ。つ。と。不。言。法。也。何。か。と。れ。一。向。ふ。と。あ。つ。



コサニト
ナン

能くしちんせん人止は持答し。是代の丸を
くものては結射させ。あめを板とてささせ。やがて
能くは向ひて。さあぶは身。はは代の上よのうら
めづく。これらづく。繩をさへし。さへんま。さへん
伊の助がうまはて。治教くあづく。さへんま
助と引と。是代ののふつなぎて。さへんま。さへんま
らるあを。指は一箇の能くは。あは橋下。通て。さへんま
あまう。身強ひて。さへんま。さへんま。さへんま。さへんま
さへんま。さへんま。さへんま。さへんま。さへんま。さへんま

コウノ下ハ

年老れども。さへんま。さへんま。さへんま。さへんま。さへんま。さへんま
子とつひて。さへんま。さへんま。さへんま。さへんま。さへんま。さへんま
身体がよま。さへんま。さへんま。さへんま。さへんま。さへんま。さへんま。さへんま
は。さへんま。さへんま。さへんま。さへんま。さへんま。さへんま。さへんま。さへんま
下よりえあけし。さへんま。さへんま。さへんま。さへんま。さへんま。さへんま。さへんま。さへんま
易く。さへんま。さへんま。さへんま。さへんま。さへんま。さへんま。さへんま。さへんま
お。さへんま。さへんま。さへんま。さへんま。さへんま。さへんま。さへんま。さへんま
今こそ是代の結魂。さへんま。さへんま。さへんま。さへんま。さへんま。さへんま。さへんま。さへんま
かうよ。さへんま。さへんま。さへんま。さへんま。さへんま。さへんま。さへんま。さへんま

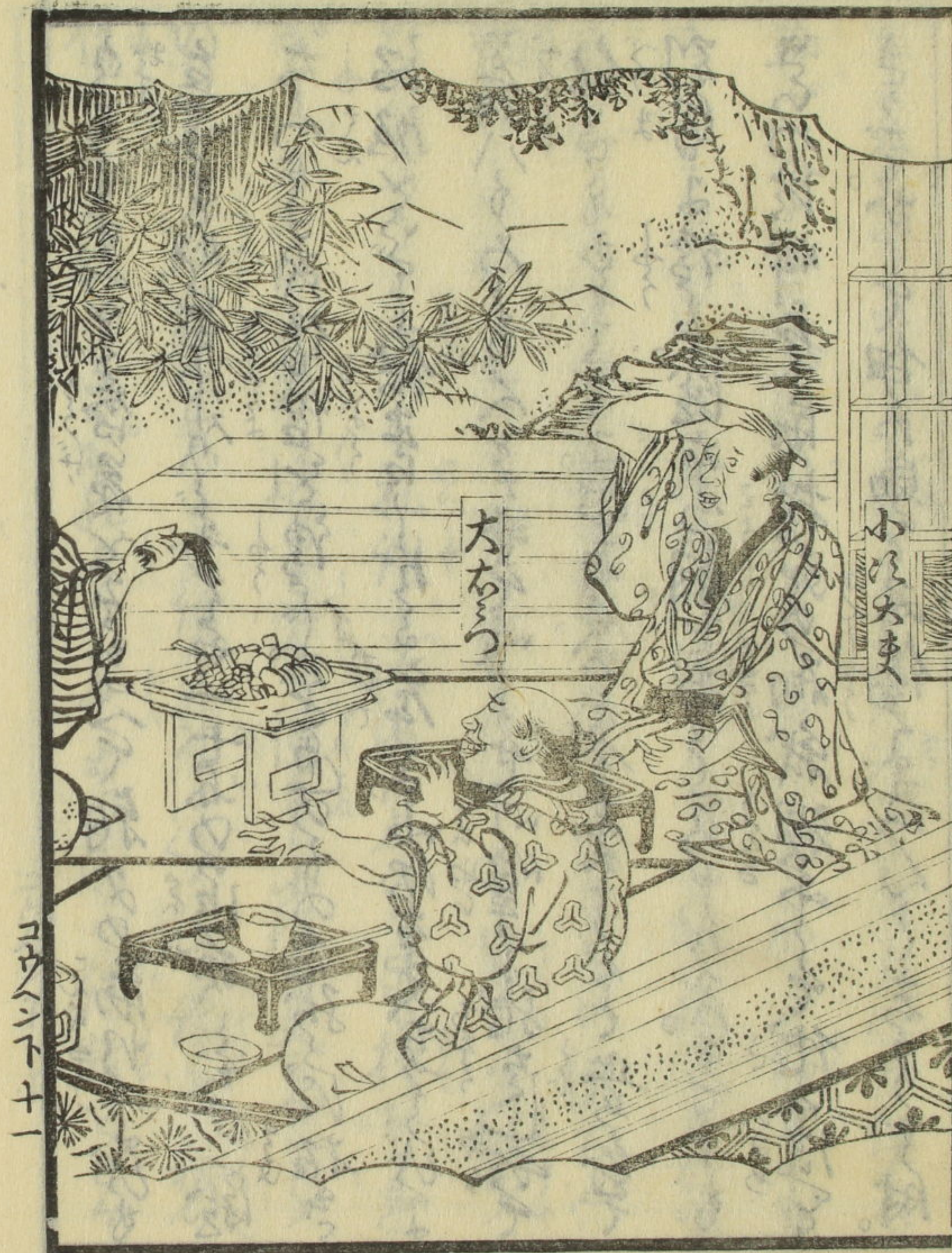
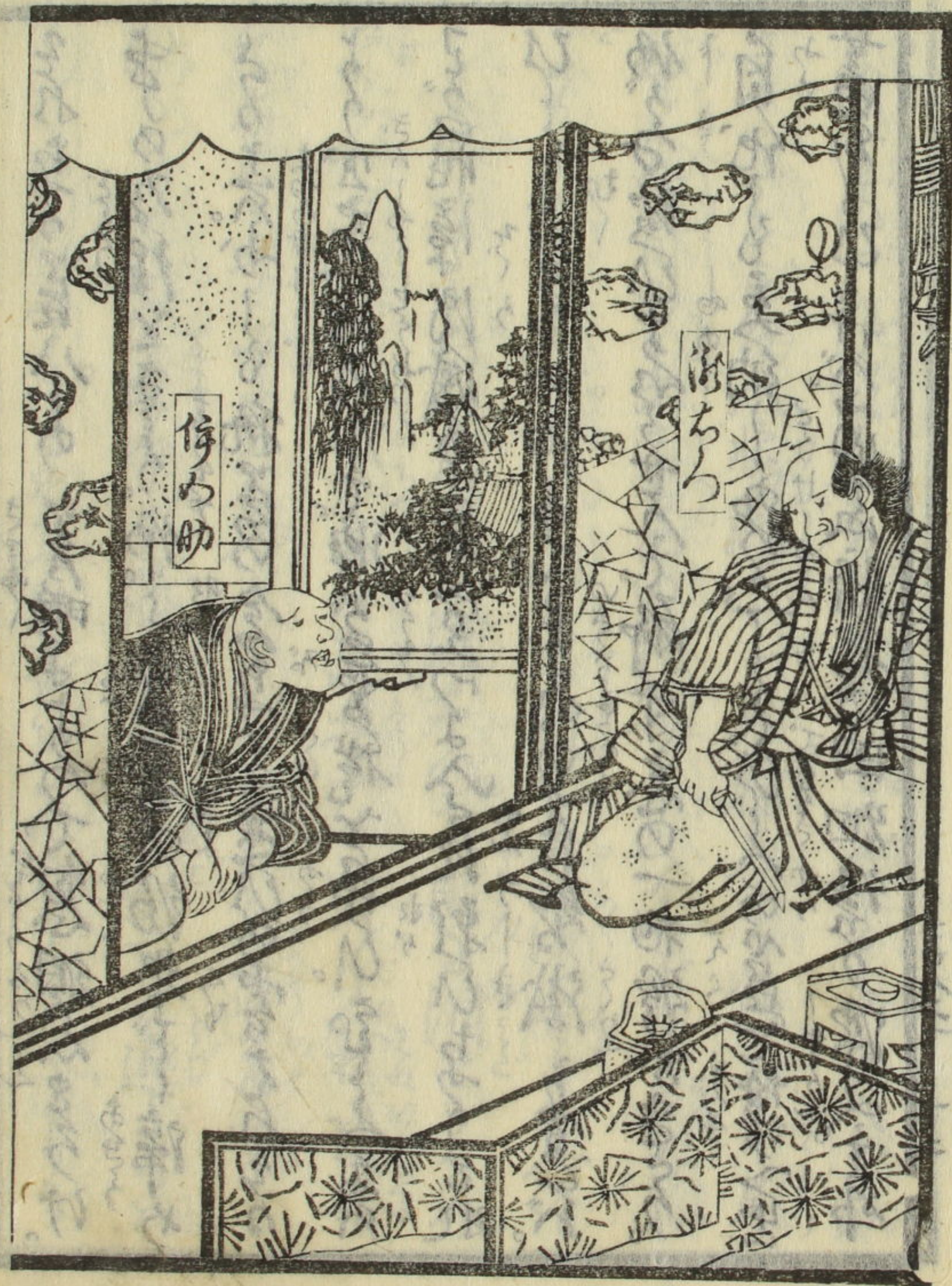
肝かんとれあつて身をへた瀝えん薬やくとあつてうせぬぞ。こま
 ちあつて強あつ入する仕合しあひなり。わささしや牌はいの仇あひを報むくりん
 とかりん公こうざいあつるがう。二命にいのちとまうるといふひい部ぶ情じやう
 くらうとまうる財さいへ伊多助いだけすけととも。なすそ命いのちのおろるべし。
 わささしあつて命いのちをせし子細こさいなり。まろく披ひ
 子とあつてあつて命いのちをせし涙なみだとまろくまろく
 いまう。そもは身の健けんもあつるまろくひよあつて。己おのれ
 よく車の程ほどと流ながはせう。は長代ながしろのさたより。まろく
 ちあつて修しゆとあつて命いのちをせし。トあつて牌はいを
 コスロト

一人ひとりをあつて死しとてげらへまてふ世よよりうら
 因縁いんえんとあつてあつて我われ思おも味あじあつてあつて牌はい不ふ純じゆんせう
 一秋ひとあき傷やうは通とほる。伊多助いだけすけと守まもりせん。一命ひといのちはあつて
 ささの羽は羽はひるうとて面目めんめいあつてあつてあつてあつて
 あつて。牌はいが死し骸がいはあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 命いのちとあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 新あらた御ごとあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 安やすらうとあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

そいふ事うつぬも死するかの詮なる。いと伊又
助が一念下及び附の一人あつむと二人をがる時事も
わくはらぶが古縁の時復よりとわかれうと世の
人にあまの世に入て勢をかりひふきさきとひの世なる
納りしへぬてあつぬりうるへひふきさきとひの世なる
のゆふちうの存く礼附し又世なるのうも採かき色
むと。きし助が蘇送のまを彼をゆふきさきとひの世なる
りて心を休移んどろよ世居しや送りして伊又助の
傷をさき糸りむが。それよりして去る所が位階とにが

コウヘン下十

ういふもまつしゝる花ととあつて朝夕の病りていひも
あつむかきさきとひの世なる一七の道成るとり。能
ちんたるの借借を清くをあるのたはちび招き
酒服とて借借しむるをよ。あつむきさきとひの世なる
と名ハもろも。人とをせめよせ可憐子死さしむり
伊又助もさきとひの世なる。今もさきとひの世なる。止めを
別居よ清く。能ちん病とあつてあつたるへり。と
さつは牌を助横死の初我親ふとて他のはと
きさきとひの世なる。伊又助を又傷よ及んとあつて時。



それあるはる八の 若鴨子よつて忽ち想ふまうけ。
事の有程をささう。何れもこの書の物事ごとく降り
らるよかしくも執事の会々く迷ひの雲をれをり
より出流得たりして牌が事と控を吊ひむらうあり
こそ飛岸清瀾のこめ堂つよふたれ影ひあり。これ
ひくふはまのうげめてとらぬの言智識 ち直ぐ
何れも執ひまらうせん。解寸志の一物控おきさう。
自他とも交納しあうごとく。ひくふの言と格あへ出
書おひひらげば。中流の格持の田畑の流又を命

代々附合のつれ程通る持事あると。さうして言ハる
あきくいさまを言ハ悔悟く。この痛入る物事か某
むちかんかう さいごう せん
を多文で目の柔直をこの礼物うらやぶの一言不
けうらとならぬ。かゝるは志枝の品は後者もまじ
いとまきわうくと。お屋せが儀をう支那子潤とらうめ
物事や一人の牌は本せが家業をゆりく。我屋板
して。存を安んずるまじく。このくまをせし
うひもあく。さあやうに世業のうらむと道とらう
よくくの園を。定めあられ世とらんきり。今うらう

出流く。田園く。死るる。凡の。佛を。と。名。す。は
て。さ。ぐ。る。や。田。所。の。名。も。よ。ま。さ。を。せ。つ。化。り。よ。の。こ
め。う。せ。き 名。跡。ゆ。人。あ。ら。ゆ。づ。人。を。あ。ひ。あ。ら。う。今。流。人。の。名。八
ま。り。ま。あ。 と。の。ま。る。ま。を。ま。と。ま。と。ま。これ。う。家。舞。一。式。を。ま。ひ。う
か。ふ。あ。き。ま。と。造。上。中。の。お。念。ち。の。ゆ。か。くの。位。合
ち。あ。う。と。い。ひ。さ。ぬ。舞。の。相。に。と。い。ぬ。は。て。お。告。ご。切。ま。て
お。り。ひ。あ。ら。う。あ。ら。さ。ぬ。少。は。ま。ま。い。れ。お。別。より。眉。下。敷
と。あ。つ。あ。然。く。と。て。お。う。ら。う。が。修。ふ。流。は。て。して。中
ら。う。の。さ。す。も。教。書。入。る。儀。を。ま。ご。め。の。か。を。そ。は。子。息。の
コウノ下十三

接死す感してよとんくさう。さやとてまりの
う。ち。あ。ら。う。ハ。止。ま。ら。う。ま。も。詮。あ。る。ま。づ。こ。ら。う
こ。そ。も。初。老。の。う。と。こ。ら。う。年。數。り。う。ま。ご。ら。人。事
ゆ。あ。ら。す。う。苦。痛。ま。た。た。い。あ。ら。ひ。る。が。う。ま。ご。さ。も。ま
あ。ら。う。別。離。苦。の。お。し。ぬ。が。死。人。情。あ。ら。ふ。是。十。今
う。ら。う。と。教。下。く。教。つ。ま。入。た。ら。ん。後。を。て。て。何。れ。と
ゆ。う。と。活。を。ま。た。た。ぬ。お。お。記。を。感。さ。る。子。息。を
あ。ら。う。と。修。り。年。身。く。け。う。ら。う。言。入。と。ま。ご。め。て。さ。も
か。く。も。ま。人。の。別。離。苦。と。は。亦。苦。を。修。む。ひ。か。が。て

遊覧の後めぐる。帰心あふ。そのとれたけきもあつて
報謝しめていふ。昔人とおもひたるは合子あふ
りのふと。お中ふ。お中ふ。お中ふ。お中ふ。お中ふ。
の初とらう。圓禪とらうと。遊士らゆつと。まらねば。
さあわらふと。漸くそのまふ。ほひらる。あぞ。小波もま
かき。福て。遊士ら。の老。肝て。一人の。強ち。是。衆
あふ。誰人さうめ。うれあふ。うひも。強ち。まらねば。
次の。同。より。伊五。助。ら。の。ま。ふ。久。刺。せ。あ。う。て。蘇。の。夜
と。ち。や。う。ま。ま。人。ぐ。お。向。ひ。に。あ。う。ち。ま。ら。ね。ば。の。

コトハシトナレ

遊覧の。と。め。か。く。の。ま。ま。う。さ。な。と。う。て。圓。禪。は。の。
志。と。あ。う。て。日。日。遊。覧。の。公。ほ。あ。う。て。は。胸。を。小。推
き。あ。う。て。お。先。判。ら。う。け。席。の。ま。ま。と。う。け。ま。ら。ね。ば。
由。ま。の。口。を。ま。ま。と。う。て。お。中。あ。う。て。ま。ら。ね。ば。
何。も。お。中。あ。う。て。お。中。あ。う。て。お。中。あ。う。て。お。中。あ。う。て。
依。ふ。ま。ま。と。う。て。お。中。あ。う。て。お。中。あ。う。て。お。中。あ。う。て。
お。中。あ。う。て。お。中。あ。う。て。お。中。あ。う。て。お。中。あ。う。て。
遊。覧。の。ま。ま。と。う。て。お。中。あ。う。て。お。中。あ。う。て。お。中。あ。う。て。
あ。う。て。お。中。あ。う。て。お。中。あ。う。て。お。中。あ。う。て。お。中。あ。う。て。

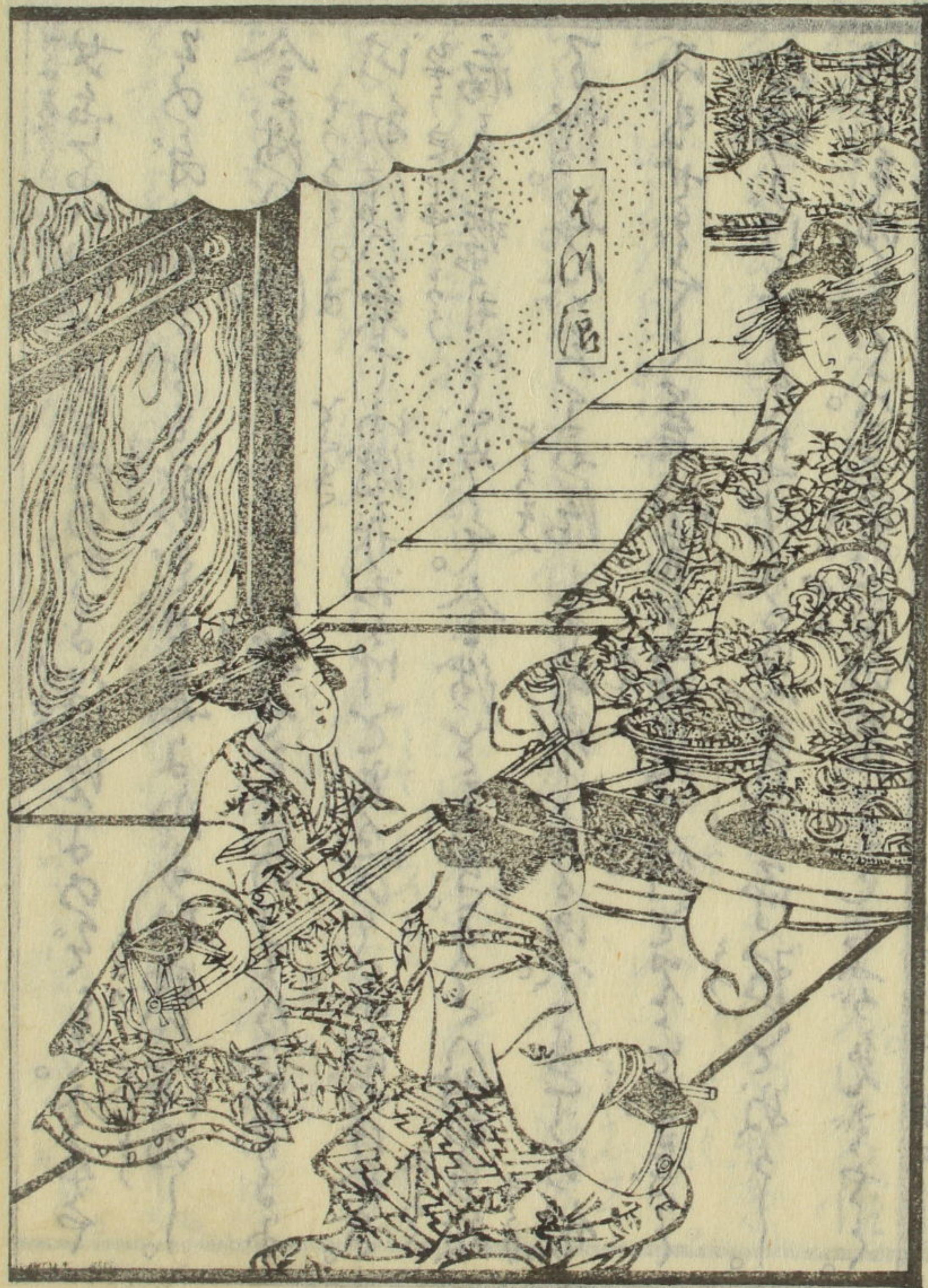
名こそせしむるありとあり。伊又助の生いなり及なり。
友人うちつし出たり。少頃ましまし音八も玉境まで
見おろし。秘どころよりなと生きて別まはりるが。
それより音八はまごふ田舎音八師くんのこの
家業とお続しけることあり

第 六 回

かくて大見守其甚たつてあひなる借後子あひ
足因遊ちんがり存跡さうけつ死にサ田音八師と
るのり田畑をそのぬくことあり。念心あまののたま

ウシト

と見まされは分は橋奈子なり。そと近あるの若者
どもは秘術を秘術を指南しる人にも恐れや
まふより。秘術公ささして我をを指し秘は秘は
る秋酒合不流く秘術とてしるが。或日身子中
引はれ川指のちるさ室のはあつる。ちやせやのたぐ
希は浦子。浦子秘術を秘術をびるふけし秘音八師
初産とあけて。秘術色あやうあるは秘術として。
そ秋はらふ一宿。多分の金子と秘術し秘術するが。
それより一々。秘術を秘術をひひし秘術し秘術を



女色あつはけりし身のかる住持子のおどろき今ふや
ちよあつはけりし じゆんじゆん
 その身のゆきとも敵ぞ日毎よかひ或は津ぬし。
ゆきとも けんみ べつ ごとく
 金銭は世はひさしくはるひ捨ててその一にふるまはるふ
きんせん せいは ひさしく さらひ したて
 け初派ハ兼て小湊并み印と表のびりふあつげおき。
けいしゆはつは かねて せうづつ ならび ぶしん と へい びり ふう あつげ おき
 病を病を初めのとめとて金銭をさうぎすつらいつのる彼
びやうを びやうを しょめの とめ と して 金銭を さいぎす つかひ つのる かの
 了悟。福んごうよわか治しとめいなりぬゆへにまじりての候
りやうぶつ ふうん ごとく ちよよわか ちやうし と つかひ したる ぬゆへ に まじりて の 候
 小もせそやく。言ハらるが安家の件とよんご。せりく
こも せそやく ことば つかひ ならる が 安家の けん と よんご せりく
 公ありげしもてちよりるゆへに言ハらるる候とぬり。
こう あり げし も て ちより る ゆへ に ことば ならる る 候 と ぬり
 何とぞゆくりハ。さうごなきおの花ともちよがれんぢやく
なに と ぞ ゆくり ハ さうご なき おの 花とも ちよがれん ぢやく

袖みこしそわたりぬるふ。いふじでうきりさうえはちんは
そでみ ころし そわたり ぬる ぶ いふ じで うきり さうえ は ちん は
 ありゆるくさうのせし男ありとすいとて大にふせき
あり ゆるく さうの せし 男 あり と すいと て 大に ぶせき
 ちよこはよの身はせんしまきとて俄か全き子りせし
ちよこ は よの みの せん し まき と て 俄か ぜんき 子り せし
 ちよやのあつふふけ合。子所全きとすしお後交
ちよや の あつ ぶふ けあひ 合 子所 ぜんき と すし お 後 交
 ちよんもあそ。初派見とてその用事とて。とわちやく
ちよん も あそ 初派 見 と て その 用事 と て とわち やく
 せん角とまてに。潤ふりれら身は一旦并あふ遊
せん かく と まて に 潤ふり れら みの 身は 一旦 なら 遊ぶ
 まさし。さうひよちまもそも抑え約せし。名を名の中
まさし さうひよ ちまも そも 抑え 約せし 名を 名の中
 ちよりまそ。外ふんをよせん。おあひもよらむと
ちより まそ 外ふん を よせん おあひ も よらむ と
 事あつをさのみふかこつけてさうなふり。らうらうらうらうら
こと あつを さのみ ぶかこ つけ て さう なふり らうらうらうらうら

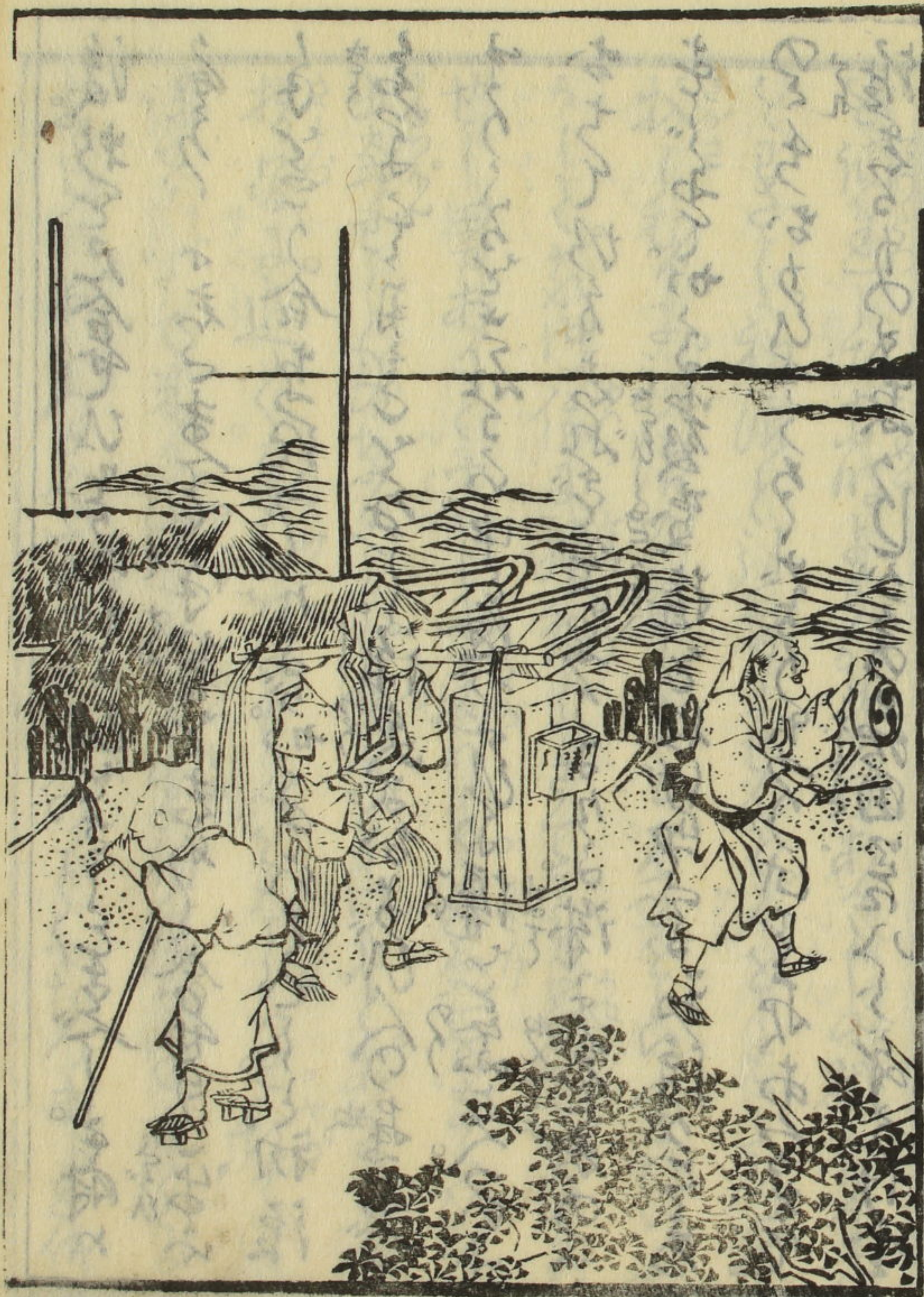
吾ハ良しき事入ぬをいよくなまじりとせよふ極めさせよ
こよひと月と雲の津の志あざむと。あらればと昔はうき
 いさなりや身とありりおへ。初信ハあるもあはれぬ
 かもひあげま。歎なげまうきと。かくて入よふまじりひもあはれ入
 ありと。女の涉せん智ち一いまふ通つて是伊を扱め小世
しき。友の人あはれおよ。昔はとま極まで。さやうふいふやう
 定めておてもいけりとう。妻細つまのよのまの申つらん。う
 身み子こ清きよ出いされ。と昔はとらうとけさよの余あま波なみとせへ
 身みもよもあはれぬとせうく。かくよう井いちぢは
 コウニト十一

通知あひしあり。ひんひんとあはれとせよ。身みの年としは
 なるに公こうなり。極ごくハ是中このちゆうでんでん。わのふくをけ。は
 ころれど支し入れど。手て清きよくちあはれ申まをもひあはれ命
 と是後このちご。せしよふとあはれのうちふとせぬけ出い別べつ
 川かわも身みを泥ぬめ申まをの縁えんと。うういふ世よの水みづも
 しわがたは子こささり。あはれ。あはれはあはれも家
 子こはる。いぬ。あはれふくら極ごくも。あはれが身みの
 う。我われちあはれあはれ。いふあはれ人のあはれ。あはれ日ひ
 いふ。及およはれ。其その同どうはありんもさういふとせぬ。と
 せぬ。

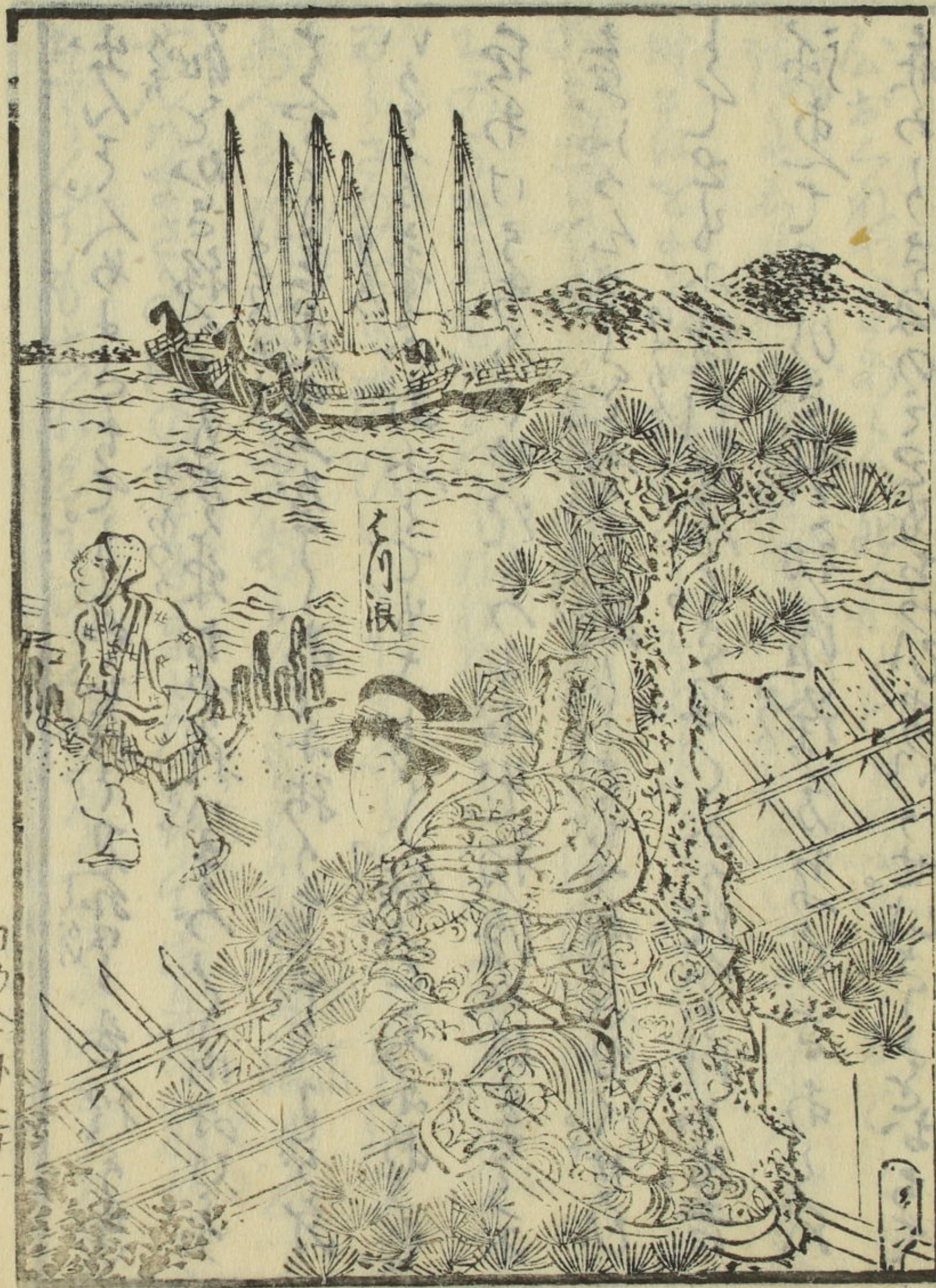
おくらぬてさあぐんかごとをまう。おこしが
なまよきひ。日が初里丹妙測合のく入身あぞ死
時そのまうは極むべし。それともあてを孫。我
のころをぬけ出るべ。あてこのは諸を回すせめ
そのころきもひらひら。あうり一西よあひ出。年
あうさぬとも薄ひら。あひまひ。昔はあも
あむをゆるむむある程も。この身財流中ふら
せんはまさの時の君ままひ。きりては身の程候と
あうんともあふを。そのう人。あうり一西よけとてりて

ユウヘニ下ニテ

出んて。人あよらちて。かやをけく刃をさるを程うき
能とあひ移んとも。そあれはまぶく。あひひら
まやく。あひあひ。あふおひち。とて入。しが身
いうあふ。あふあふ。あふとて。さうく。あひを。あふあふ。
あわけるあふとせれ。あふあふぞ。初測合ひをさる。あ
きあふが公さ。あふとあう。感。あふあふがさう。せい
として。あふあひせん。と。さふく。あふあひ。あひあひ。昔
あふあひ。あひあひ。初測合。あふあひ。あふあひ。あふあひ。
あふあひ。あふあひ。あふあひ。あふあひ。あふあひ。あふあひ。



五ノ目



コウノトニ

後。頼と元會せしむるふむひつたきしひはぐり。時
 毎つらみあしきまをし海をともがけ。合せらへる
 子とて合。あはれり。ひるがつかへるまて。初浪
 高きや。用とくそな。津波よおよびくの。乗まづ
 中へふるさなをいん中へ。海づき。浪もいづ。入つふ
 おちて。あつたおれぎ。あつたふら。津よ。合を。あの一
 まぎあて。かゝる。数。波。波。せ。ぬ。け。あ。つ。つ。初。浪。が。こ。ろ
 の。ち。か。り。ひ。ち。り。ち。り。ち。り。あ。り。け。し。て。お。あ。る。あ。せ。
 誰。ま。る。力。の。も。あ。つ。し。び。づ。る。の。き。り。田。を。い。は。つ。ま。う。け。金

と。浪。を。ま。り。と。ま。る。よ。う。の。け。あ。つ。た。小。掛。合。金。子
 と。し。て。初。浪。と。し。て。あ。り。と。人。と。して。浪。が
 お。も。る。よ。初。浪。の。波。も。あ。つ。た。と。い。ふ
 う。と。お。内。係。は。強。物。一。ま。と。も。あ。つ。た。い。ふ
 せ。一。男。あ。つ。と。や。一。小。遠。の。ま。と。あ。つ。た。い。ふ
 出。太。夫。と。つ。の。あ。つ。た。一。遅。人。と。う。け。あ。つ。た。い。ふ
 指。袋。よ。追。く。ま。つ。た。一。人。と。あ。つ。た。い。ふ
 海。を。し。て。ま。り。海。を。平。生。初。浪。が。ま。り。と。い。ふ
 ち。さ。が。い。あ。ま。り。と。い。ふ。の。と。弟。の。ど。く。し。り。ま。ぎ。つ。た

よくあがり。物よと云初浪がゆるる。海まらざるよ
ありまじきちう。ありてなまやべしと。初あうく
しく。妻向のま。吉原の海を渡る。初あうく
まじきもさうぎ。口まらざるよ。答ある。初
あう。あるト。怒つて。汝は。あうも。けいなる。む。
必定初浪の。さ。合て。い。せ。あ。よ。あ。遠。ま。か。
を。花。と。と。せ。か。か。の。海。を。り。と。さ。ん。ご。ふ。て。う。ち。あ。し。
あ。く。ま。げ。し。四。の。し。あ。く。ま。か。も。妻。さ。る。な。さ。る。ぞ。
を。海。の。身。も。ま。え。ん。ぐ。なる。な。り。を。長。を。あ。い。し。さ。け。

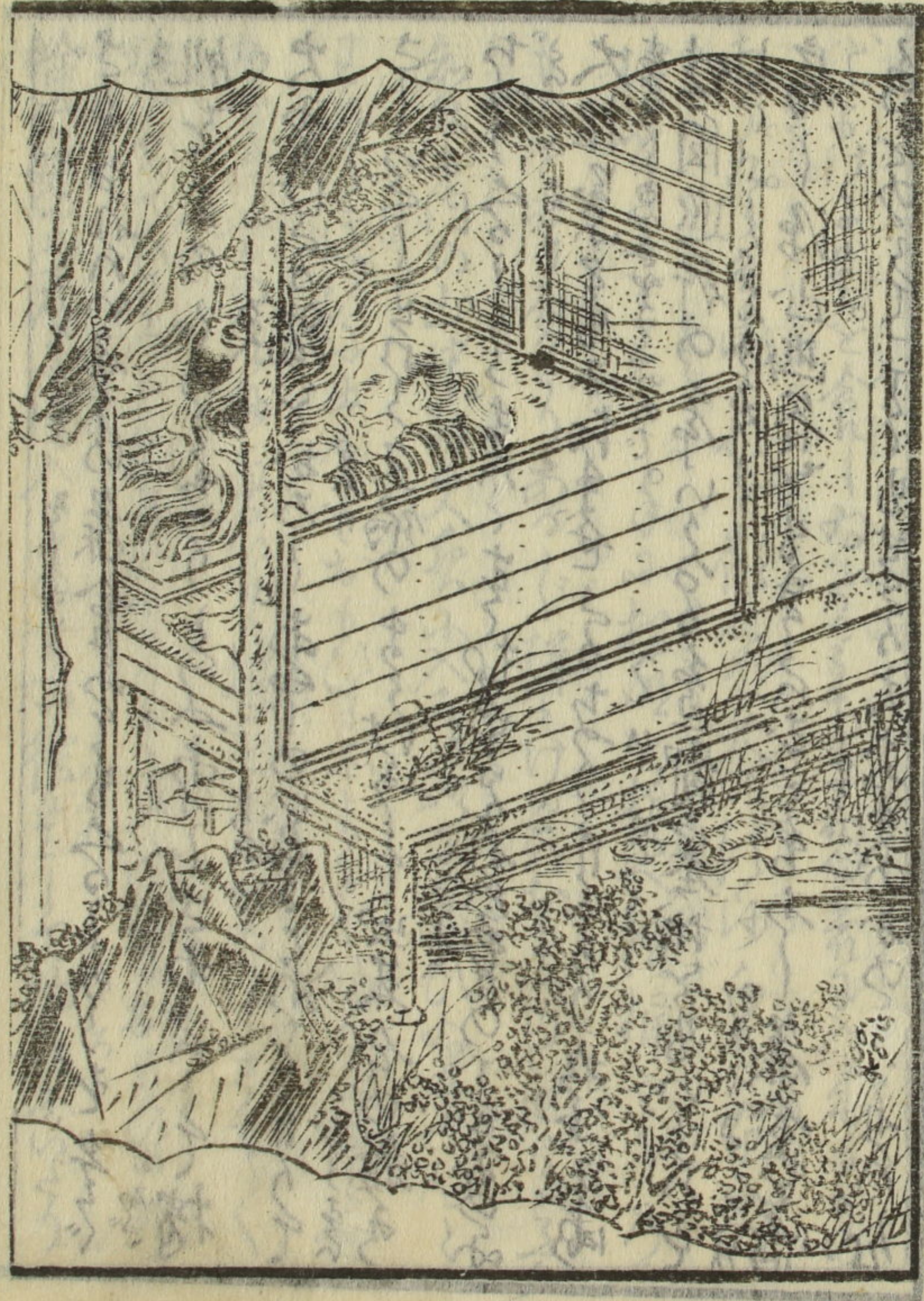
さう。こ。血。波。ま。ら。な。り。て。苦。く。む。あ。う。さ。な。あ。あ。あ。
刹の可きもかくやと。おむる。言ハ。師。生。刻。より
例。あ。う。て。は。体。を。か。ん。り。う。人。く。と。か。い。字。有。り。て。い。よ。
ま。く。ふ。初。浪。が。あ。り。体。の。さ。海。の。口。の。さ。海。の。さ。海。の。さ。海。
か。よ。む。ぞ。吉。原。の。海。も。さ。ら。る。よ。あ。る。ま。じ。き。あ。う。も。
初。浪。の。か。ん。ご。ま。青。く。う。り。と。さ。る。ふ。あ。う。び。き。石。便。
ち。ぬ。が。我。初。浪。が。身。の。代。の。金。ま。さ。り。て。准。ま。さ。ら。し。
さ。う。ま。じ。き。ち。あ。う。ま。附。金。を。五。浪。ま。か。よ。む。ぞ。あ。う。と。
か。あ。ふ。も。傷。中。の。初。浪。ひ。ち。う。る。べし。は。い。ら。う。あ。う。ん。とい。ふ。

かゝりより利家^{りよ}の賜^{たま}なきあるに忽^{たち}跳^たげし。まゝにふ
かへた事もなきに仁徳^{にんとく}の如^{ごと}く感^{かん}をせし。ちよびらう
とせしは所^{ところ}あざく。あまのまへ人も石^{いし}はなは後のあ
初^{はつ}信^{しん}がゆくまのまをこころめて^{せん}。数^{かず}金^{かね}をささぐれをまがの
意^いはちあねば千金^{せんねん}あもろくならねども。は志^しよめんト。
いふも^{おせ}の^{ぞも}育^もくまぶと。納^なめされば。善^{ぜん}はらう徳^{とく}の
金^{かね}の二^{ふた}包^{つか}とそりし。あつふあえて。年^{ねん}季^きのこれ
五月^{ごがつ}久^く長^{なが}て。意^いはちとまきけからして。衣^い敷^しるどひき
つゝのせ。お介^{おせ}抱^{かか}り。かゝる存^{ぞん}ひそろちのせ。おのが

意^いはちへいさなひらる。けいさハ亭^{てい}意^いはちが難^{なん}儀^ぎと見え
う秘^ひ大金^{たいかね}あつて。老^{らう}を^をとまらふて。亦^{また}かゝる仁^{にん}無^むと
又^{また}せうけ。お中^{ちゆう}ま。あつたところのありぞ。後^ご了^{りょう}ぞ
第七回
おのの志^しとるる
お又^{また}とる丹^{たん}妙^{めう}元^{げん}伊^い勢^{せい}の侍^{ざむらい}長^{なが}太^たを^を年^{ねん}未^みたうを^を傍^{はた}へ
固^こりこゝと出^でしより。中^{ちゆう}必^{ひつ}西^{せい}國^{こく}と経^{けい}巡^{じゆん}す。款^{くわん}甚^{じん}臺^{たい}
ちよびら傍^{はた}を^を披^ひ求^{もと}る。あはまて。それより四^し國^{こく}よ
りしより。又^{また}くことおのの。あはのまををとさし。て。
意^いはちらるる。あ。成^{せい}山^{さん}を^を海^{かい}邊^{へん}へ。巳^しの日^ひを

うりたるは折ゆ。青雲あけてゆくさねもこころいそぎ。
木の根よつるき。若らぐふまぎなり。幸うしてひとり乃
繁室ある事出たり。九ふき傍た右と備。又まをよ。
相本まぬく。生るるまの事。居るとく。寂寂るるの
わぬむの事かちりり。権斜。海を渡れて。む一後
菰中うのものを引。後ひからひるるる。ちよとり。大
幽。よんへるゆ。かうき傍かより。かゝる山中の離れ
たぬ。必。定。推。笑。将。人。の。ま。ま。衆。あ。ら。ん。を。ま。い。に。ま。り
は。け。あ。そ。この。こ。ろ。一。宿。せ。る。や。と。か。こ。ち。よ。か。と。づ。と。と。
コウヘニ下二十也

そのよとくひ入るよ。あつとくか。が。り。き。こ。將。因。伽。裏
あやま。こ。う。り。措。さ。一。く。そ。わ。ら。る。る。が。強。人。あ。ら。ん。が
と。み。こ。こ。ろ。い。わ。れ。り。を。新。收。び。免。の。あ。は。あ。い。な
そ。ぎ。そ。そ。な。よ。こ。う。と。も。ふ。い。ろ。う。の。例。ふ。安。堅。一。ら。ふ
あ。つ。の。り。ま。り。ま。て。ま。け。西。の。幽。尊。の。山。中。ち。あ。れ。が。食
物。と。も。西。東。釋。の。こ。づ。ひ。の。こ。ち。あ。ら。ん。そ。れ。あ。て。も。ま。い。く
め。ま。と。や。ら。の。小。丸。を。所。き。傍。あ。て。し。れ。さ。る。公。衆。の。こ。あ。つ。て。
あ。ら。ん。結。固。の。編。歴。ま。ら。ふ。分。ち。あ。れ。ば。出。来。葉。の。つ。の
こ。こ。ら。あ。ん。ぎ。り
斗。義。比。持。子。ひ。こ。う。と。日。中。一。食。樹。下。一。宿。の。こ。ら。ら



伊五郎

コウヘン二十六

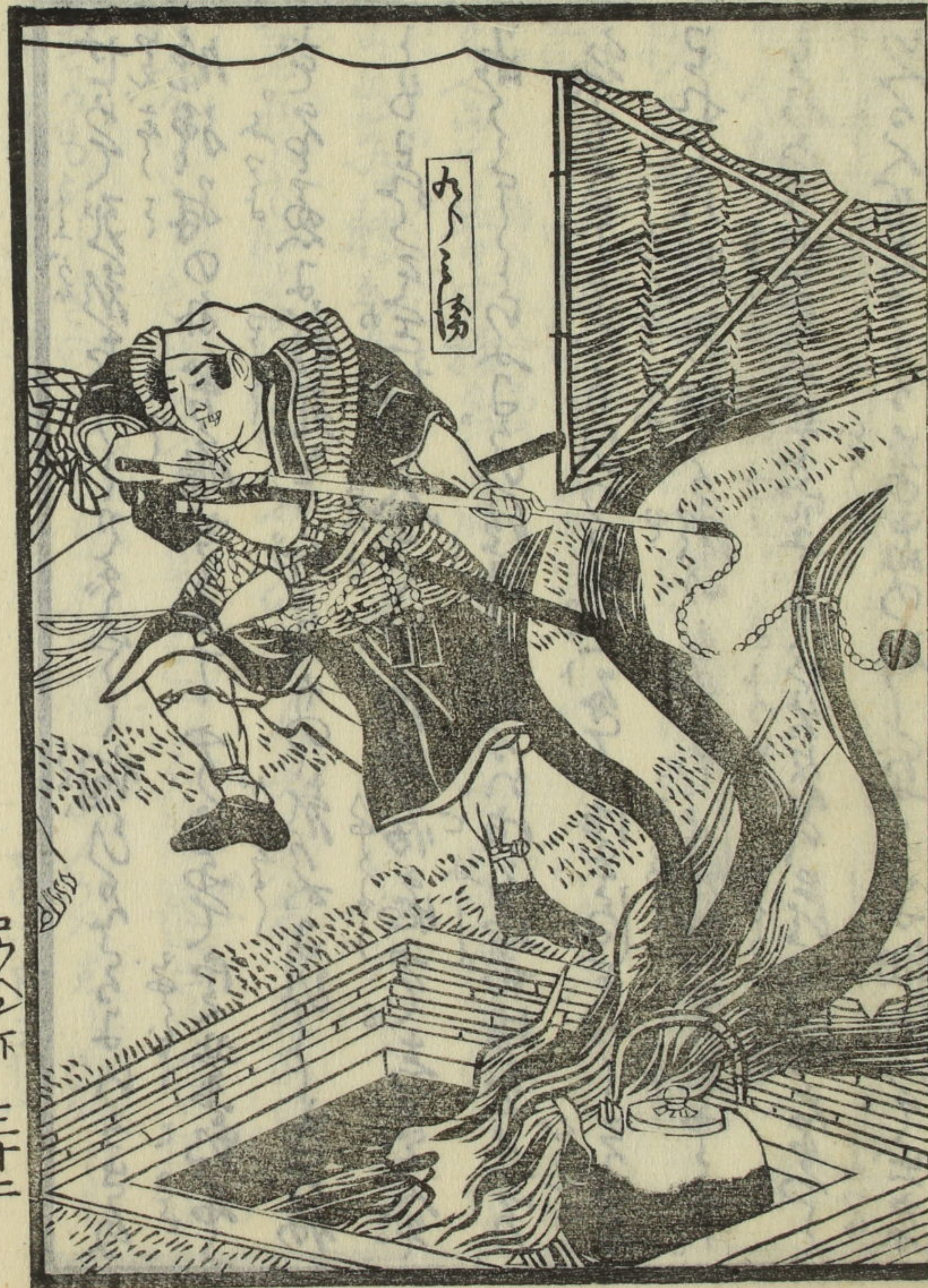
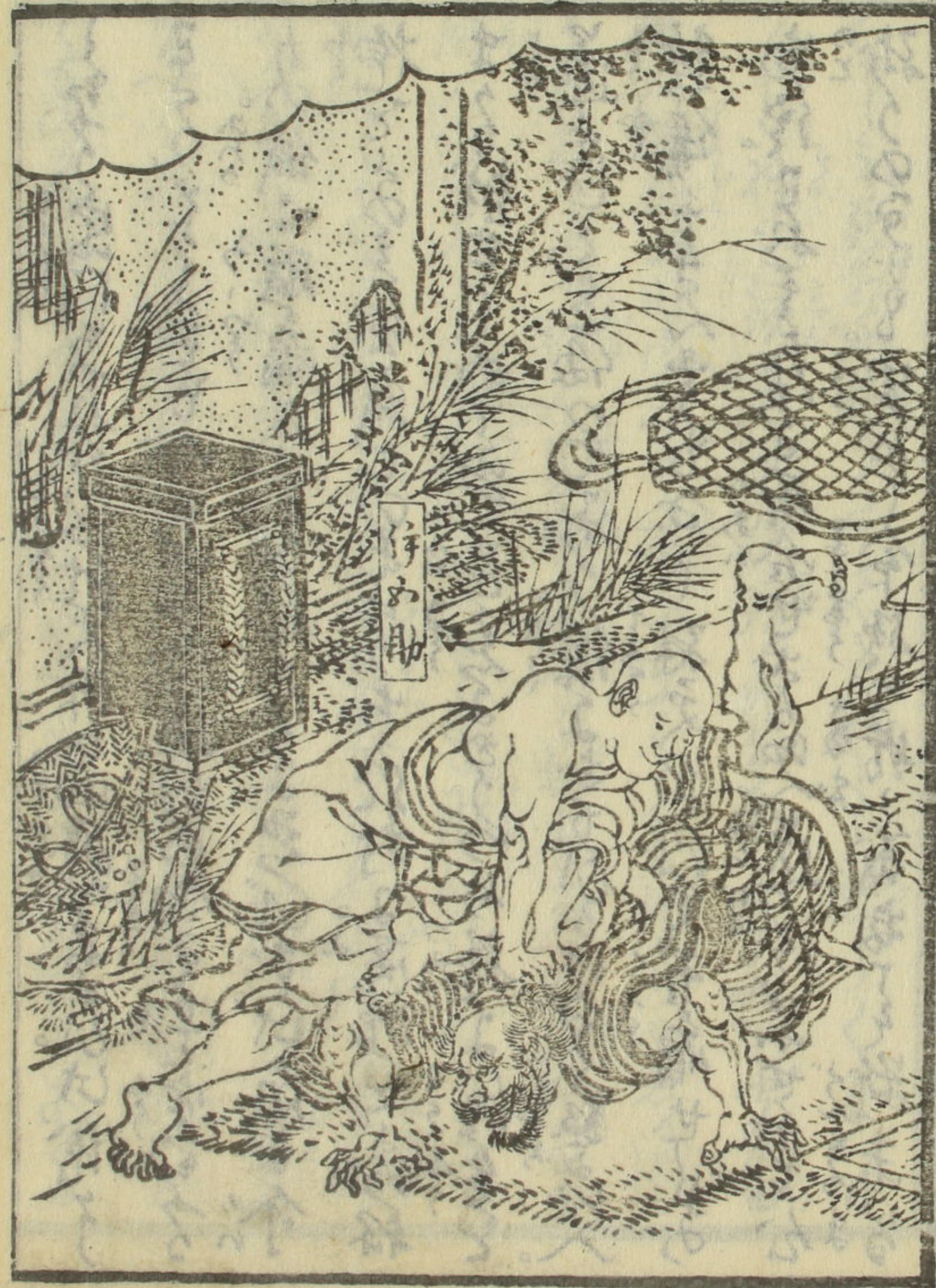
おとろ

ざい、おれい、あうの、舞、會、あ、も、ら、う、う、ま、を、ま、る、
 肌、を、ま、の、く、の、ま、あ、う、ら、う、あ、ら、い、ま、あ、う、を、ま、
 大、あ、け、る、踏、を、お、わ、り、あ、中、の、ま、ま、を、ま、り、り、
 き、い、ご、い、ま、ら、う、夕、陽、の、ま、ま、け、あ、も、ま、あ、ま、合、の、舞、あ、
 ち、あ、う、ら、う、う、ま、ま、と、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
 大、報、業、ま、も、ふ、お、ま、を、ま、ら、あ、う、れ、い、う、り、か、ら、ま、ま、
 幸、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
 徳、園、巡、行、の、序、い、ら、り、る、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
 宿、く、海、山、幽、谷、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
 あ、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、

地、ま、げ、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
 あ、う、ら、う、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
 境、有、ら、う、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
 かの、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
 知、母、ま、内、の、山、中、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
 日、あ、ら、う、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
 あ、ま、ら、う、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
 拵、中、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
 峰、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、

常々体よぬきき謝あやしく。おてを必きく程程のり
がら我をこころあやしく。我を殺るさんしきりやさいと一人
泣きあふよよ死に死にそ出あはる。法は性所をらん届
引さうてんくまかりを延屏風さうのけかると何もなく。
只七者のま白き飯を歩りあせありらびを急怪しと
これとてりて川のつらよきあつらひて一尺の後飛出るとは
あつらの網かたからんへ細繩とてて古く極り遊まきとる
あつら後死人の枕かたよ飾と彼へ方いんぬ。さうらうとひ
らぶが延屏風のうらやう。その形容はえとて細きと耳

ざりのむらとあまき傍のうけてあやしくも程とてそ
福おもひのまきあまきしてたのめとてうの白衣を歩りけんじて
ゆかあまきとてあまきとて。年のはとて中あまきの後と
眼飛出はより血を吐るるとかえいさぬゆもるる。と
まらう伴の。その上の首のまらう。溢死するものくおとく。
扱きれさう浪跡あり。さうとてそとる家な中お驚きの
男いさる。おてとてとてあまきとてあまきとて。おてとて
さうが院よまきの刻とてさうに友人あつらぬてゆりきとら
まてりく藤くのひらり。おてとてとて。おてとてとて。おてとて



ヨウヘ下 三十二

がしと指捕さしつかかりはあつあつあつあつの羽はねとさしさし花はなひつひつ。寺てら
ふりちめた大暮おほいそらくちあしとまうまうの美奈あまなふらふらききが
あよぶぐの二乳にちちとのへね又あしあしも好このの外ぐわい役やく命めいと
ちうりちうりとねバねバゆるゆるささちち産うぶくくぞんぞんけけ一いちおおををよよやや受う
納のあれあれといいひひささるるうう持もつつるる刺さりりゆゆててるる母ははがが乳ちちのの下した
よりよりひひささししととりりてて骨ほねももききれれよよくく切きりりててああししららくく
てて倒たふししよよままととままのの下したはは際ぎはををおおののれれささららいいままららくく
洋やう突とつ合がのの羽はねとと宣のたまへへんんららくくをを附つ録ろくささががああららののれれ
行ゆけけ彼かをを世よ代しろああまま内うちのの目めれれうういいううんんももああららくくささららくく
ユウニ下三十七

さてさてととくくくく偽いつはりままててままままてて助たすけををららるるああららりり。日ひががままああららるる
ままのの松まつもも務むりりとと大おほ患あはれれるるままををままははりりゆゆととままららんんふふ
教しん官くわんせせううまま一いちゆゆととまま後あと安あん頼ぜんふふささらら玉たまねねんんややとと。
ささんんぶぶのの切きりりななららぬぬ。終つひははななららぬぬととららくく
みみままららりりななららぬぬががななららぬぬ。いいままははああららうう。いいままははああららうう。
ままままままままととああららんんとと感かん激げき。ままままままままとと一いち夜やのの目めををああららくく
ままのの扶たす縁えんををむむととむむいいとと由ゆ坊ぼうのの目めををああららくく。いいままははああららうう。
ささららくく越こええやや。ささららくく越こええををよよりり乗のり船せん。よよりりのの船せんははああららくく
むむららんんええののよよれれをを連つれれららるる。いいままははああららうう。

家^{いん}が傳^{でん}之^の美^い田^{でん}居^いく^くと^とつ^つ八^は仇^あ款^き其^き臺^{たい}を^をら^らる^る
夕^ゆ家^かを^をら^らる^るも^も志^しを^をら^らる^ると^と解^くが^が流^{りゅう}ふ^ふと^と

ら^らの^のゆ^ゆき^きん^んら^ら

美濃國岐阜米屋町

三浦源助版

